

農業文化に想う

農業というものは、改めて問い直すまでもなく、手段も目的も平和産業であり、平和に寄与しているということが、農業の一端に関与する者にとっての自負でもある。

人類が生活の安定を求めて、知識を使い、文字通りカルチャーしつつ、定着農耕の道を選んだのは、まさに平和を基本とした英断であったはずである。

一方、今世紀後半、科学技術の進歩に押し上げられて、農業技術は加速度的な発展をなしつつあるが、なかでも新興分野に属する除草剤・植物調節剤の技術は、見事な軌跡を画いて今日に至っている。研究開発ならびにこれに関連した多くの方々の知恵と努力に、今更ながら敬意を表したい。

現場に生かされた除草剤の技術は、すでに、「田の草とり」の姿を歴史上のものとし、やがてはその言葉すらも忘れさせてしまうだろう。手甲・脚絆に菅笠・襦・田植歌も長閑な田園風景も、昔日を偲ぶものとして美しくは残るが、歩行困難な水田で長時間に及ぶ炎天下の作業は米作りの苦行であり、これが開放はどれほど素晴らしいものであったか、評価は明白なことである。

さて、昨今紙面をにぎわしているダイオキシンの問題は、除草剤の一角に起きた鬼っ子であろう。これについての報道も、物質名を特定することなく、除草剤の一語で総括表現されることは、はなはだ残念なことであり、また戦争での利用など、遺憾至極のことである。平和な農業文化につながるものとして、植物防疫事業の良識の中で活用されてこそ、と訴えたいもので

目次 (第18巻第4号)	
イスラエルのカンキツ産業の現状……………	2
＜静岡県柑橘試験場 岡田正道＞	
1. はじめに……………	2
2. イスラエルの農業……………	2
3. イスラエルのカンキツ産業の 現状……………	5
世界の農耕地雑草とその調査研究(1)……………	9
＜宇都宮大学 竹松哲夫・一前宣正＞	
キキョウ科概説……………	10
1. <i>Cephalostigma perrottetii</i> A. Dc.……………	11
2. <i>Isotoma longiflora</i> Presl ホシアザミ……………	11
3. <i>Lobelia chinensis</i> Lour. アゼムシロ……………	12
4. <i>Sphenoclea zeylanica</i> Gaertn. ナガボノウルシ……………	14
「エックスゴーニ」ものがたり……………	16
＜石原産業株式会社 市橋正幸＞	
昭和57年度非農耕地用除草剤試験成績概要……………	23
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	

ある。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
三共株式会社 専務取締役 上井忠太郎〕